



アンビエントをテーマにした視聴覚芸術の展覧会

AMBIENT KYOTO 2023

京都複数会場を舞台に 2023年10月6日(金)~12月24日(日)開催

参加アーティスト

エキシビジョン 坂本龍一 + 高谷史郎、Cornelius、Buffalo Daughter、山本精一
ライブ Terry Riley、Cornelius
朗読 朝吹真理子

最新情報のご案内

- 展覧会：各アーティストの展示会場が決定
- コーネリアス（ライブ）、朝吹真理子（朗読作品）の参加が決定
- チケットは9月5日（火）より発売開始
- テリー・ライリーの東本願寺・能舞台でのライブは、立体音響ライブに



AMBIENT KYOTO

2023.10.6 ————— 12.24

AMBIENT KYOTOは、昨年2022年、第一回目として、アンビエントの創始者ブライアン・イーノの展覧会を開催し大成功を収めました。第二回目となる『AMBIENT KYOTO 2023』は、今年10月6日（金）より京都の特別な複数の会場を舞台に展覧会とライブ、そして朗読作品の公開が行われます。本頁では最新情報をお知らせします。

展覧会：各アーティストの展示会場が決定

展覧会の各アーティストの展示会場が以下の通り決定しました。

京都新聞ビル地下1階の約1,000平米の広大なスペースには、坂本龍一 + 高谷史郎の作品が展示されます。

昨年、第一回目の会場となった京都中央信用金庫 旧厚生センターには、コーネリアス、バッファロー・ドーター、山本精一の作品が展示されます。

「音」が重要なテーマとなる今回のAMBIENT KYOTOにおいて、全展示作品の音響ディレクター/ミックスをZAKが務めます。作品内容の詳細は、ウェブサイトおよびSNSなどで随時ご案内します。

追加アーティストおよびラインアップ 小説家 朝吹真理子による朗読、コーネリアスによるライブ

[コーネリアス ライブ概要]

タイトル AMBIENT KYOTO 2023 presents Cornelius 夢中夢 Special Live Set

会場 国立京都国際会館 Main Hall

日程 2023年11月3日（金・祝）

開場 16:00 / 開演 17:00

チケット 全席指定 S席 9,800円/ A席 8,800円

チケット発売日 2023年9月5日（火）正午より

チケット購入サイト <https://ambientkyoto.com/about#tickets-info>

すでに展覧会でインスタレーション作品を出展することを発表したコーネリアスは、本展のためのスペシャル・ライブ・セットを、11月3日（金・祝）にモダニズム建築の傑作と称される国立京都国際会館 Main Hallで開催します。6月に発売した最新アルバム『夢中夢 - Dream in Dream-』のタイトルを冠した全国ツアー<Cornelius 夢中夢 Tour 2023>を9月から実施し、その終了後に一夜限りのライブを開催します。

[朝吹真理子 朗読]



「流跡」

小説家 朝吹真理子は、デビュー作「流跡」を著者自身が全編朗読した録音作品を制作し、会期中にPodcastにて公開することになりました。また、アンビエントと小説についてのロングエッセイを執筆し、本展HPにて開幕前に公開を予定しています。

テリー・ライリー 立体音響ライブの実施が決定

ミニマル・ミュージックの巨匠 テリー・ライリーのライブ(7月に発表済)は、立体音響ライブの実施が決定しました。通常、非公開の東本願寺・能舞台という特別な会場での開催となります。

チケットの発売日などの詳細が決定

本展の展覧会とライブのチケットは、9月5日（火）正午より発売が開始されます。

・チケット購入サイト：<https://ambientkyoto.com/about#tickets-info>

詳細は本プレスリリースの開催概要（P.4）にてご確認ください。



ABOUT AMBIENT KYOTO

伝統と革新が息づく世界的文化都市 京都の叡智と共に創造する、アンビエントをテーマにした視聴覚芸術の展覧会、AMBIENT KYOTO。

昨年2022年、第一回目として、アンビエントの創始者ブライアン・イーノの展覧会『BRIAN ENO AMBIENT KYOTO』を、京都を舞台に開催し大成功を収めました。

第二回目となる『AMBIENT KYOTO 2023』は、日本が世界に誇るアーティスト、坂本龍一、高谷史郎、コーネリアス、バッファロー・ドーター、山本精一、朝吹真理子による作品が出展されます。

展覧会の会場は、昨年と同様、京都中央信用金庫 旧厚生センター、そして新たな会場に、京都新聞ビル地下1階が加わり、2会場で開催します。

また、今年は展覧会のみならず、会期中にライブを開催します。アンビエント・ミュージックに多大な影響を与えた、ミニマル・ミュージックの巨匠テリー・ライリーが東本願寺・能舞台で10月13日（金）と14日（土）の二日間に渡りライブを、展覧会に作品を出展するコーネリアスは、モダン建築の傑作と称される国立京都国際会館 Main Hallにて一夜限りのスペシャル・ライブ・セットを開催します。

さらに、朝吹真理子は、デビュー作「流跡」を自身で全編朗読した録音作品を制作し、会期中にPodcastにて公開しますまた、アンビエントと小説についてのロングエッセイを執筆し、本展ウェブサイトにて開幕前に公開を予定しています。

今回のキー・ヴィジュアルを手掛けたのは、アイスランド出身の世界的バンド、シガー・ロスのアルバム『Takk...』などのアートワークを手掛けてきたアレックス・ソマーズ。ロゴデザインは、グラフィックデザイナー、田中せりが担当しました。

アンビエントは、音だけを切り取って成り立つものではなく、その音楽が流れる風土・文化の一部となる音楽です。またアンビエントには、これからの人間が環境・地球とどう向かい合っていくべきか、その新たな価値観の提示も含まれています。本展は、京都の風土・文化・人々と共に作り上げることを第一として開催します。

AMBIENT KYOTOは、長期に渡り京都と共に歩み続けることによってのみ、本来の目的にかなうものです。長期的視野に立ち、展覧会を開催し続け、京都が「アンビエントの聖地」として国内のみならず国際的な評価・認知を得ることを目指します。

AMBIENT KYOTO 2023 実行委員会

開催概要

タイトル：AMBIENT KYOTO 2023（アンビエント・キョウト2023）

参加アーティストおよび会場：

[展覧会] 坂本龍一 + 高谷史郎：京都新聞ビル地下1階

コーネリアス、バッファロー・ドーター + 山本精一：京都中央信用金庫 旧厚生センター

[ライブ] テリー・ライリー：東本願寺・能舞台

コーネリアス：国立京都国際会館 Main Hall

[朗読] 朝吹真理子

会期：2023年10月6日（金） - 12月24日（日） 9:00 - 19:00 入場は閉館の30分前まで

* 休館日：11月12日（日）、12月10日（日）

* テリー・ライリーのライブ実施日：10月13日（金）、10月14日（土）

主催：AMBIENT KYOTO 2023 実行委員会（TOW / 京都新聞 / Traffic / 京都アンプリチュード）

企画・制作：TOW / Traffic

協力：文化庁 / α-station FM KYOTO / 京都CLUB METRO

後援：京都府 / 京都市 / 公益社団法人京都市観光協会 / FM COCOLO

音響機材協賛：Genelec Japan / ゼンハイザージャパン

映像機材協賛：bricks & company / Magnux

協賛：Square

特別協力：京都中央信用金庫

Website. <https://ambientkyoto.com/>

Twitter. <https://twitter.com/ambientkyoto>

Instagram. <https://www.instagram.com/ambientkyoto>

Facebook. <https://www.facebook.com/ambientkyoto>

チケット詳細

チケット発売日：9月5日（火）正午より

チケット購入サイト：<https://ambientkyoto.com/about#tickets-info>

[展覧会]

一般 ¥3,300 / 専・大学生 ¥2,200 / 中高生 ¥1,800

前売：300円引・小学生以下無料

※京都新聞地下1階のみ、限定数で一部無料枠を設ける予定

[ライブ]

テリー・ライリー

会場：東本願寺・能舞台

日程：2023年10月13日（金）、14日（土）

開場 17:30 / 開演 18:30

チケット：全席指定 S席 ¥10,000 / A席 ¥9,000 / B席 ¥8,000

その他：未就学児入場不可

コーネリアス

会場：国立京都国際会館Main Hall

日程：2023年11月3日（金・祝）

開場 16:00 / 開演 17:00

チケット：全席指定 S席 9,800円 / A席 8,800円

その他：未就学児入場不可

※上記表示のチケット料金は全て税込価格

アーティスト・プロフィール (1/2)



photo by Neo Sora (C) 2022 Kab Inc.

坂本龍一 (音楽家 / アーティスト)

1952年1月17日、東京生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年、YMOの結成に参加。1983年に散開後は『音楽図鑑』『BEAUTY』『async』『12』などを発表、革新的なサウンドを追求し続けた姿勢は世界的評価を得た。映画音楽では『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞作曲賞を、『ラストエンペラー』でアカデミー賞作曲賞、ゴールデングローブ賞最優秀作曲賞、グラミー賞映画・テレビ音楽賞など多数受賞。『LIFE』、『TIME』などの舞台作品や、韓国や中国での大規模インスタレーション展示など、アート界への越境も積極的に行なった。環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」を創設。また「東北ユースオーケストラ」を設立して被災地の子供たちの音楽活動を支援した。2023年3月28日死去。

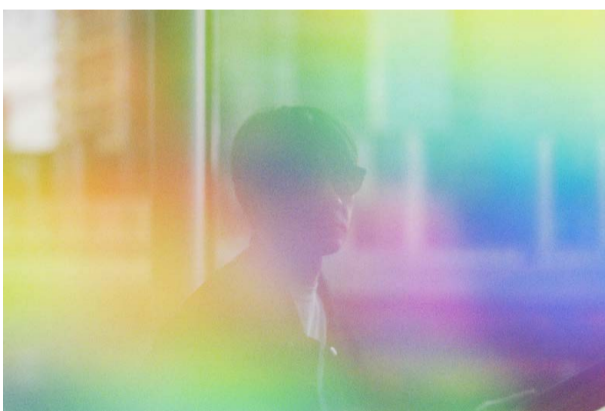
<https://www.sitesakamoto.com/>



高谷史郎

1984年、京都市立芸術大学在学中に「ダムタイプ」のメンバーとして活動を始め、様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンターで公演や展示を行う。1998年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。近年の主な活動としては、2021年、坂本龍一とのシアターピース『TIME』をオランダ・フェスティバルで世界初演。2022年、ダムタイプは坂本龍一を新メンバーに迎え、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展・日本館で新作《2022》を展示。2023年にアーティゾン美術館（東京）で、ヴェネチア・ビエンナーレ帰国展「ダムタイプ | 2022: remap」展示。2024年春、『TIME』を東京・新国立劇場およびロームシアター京都で上演予定。

<http://shiro.dumbtype.com>



Cornelius (コーネリアス)

小山田圭吾のソロプロジェクト。

1993年、Corneliusとして活動をスタート。

6/28にアルバム『夢中夢 -Dream in Dream-』をリリース。

自身の活動以外にも、国内外多数のアーティストとのコラボレーションやREMIX、インスタレーションやプロデュースなど幅広く活動中。

<http://www.cornelius-sound.com/>



Buffalo Daughter (バッファロー・ドーター)

シュガー吉永 (g, vo, tb-303) 大野由美子 (b, vo, electronics) 山本ムーグ (turntable,vo)

1993年結成以来、バンド編成での新しい音楽をアルバムをリリースするごとに提示し続け、2023年結成 30周年を迎えた現在も日本のみならず海外でもライブバンドとして大きな評価を得ている。2021年に8枚目となるアルバム「We Are The Times」をワールドワイドでリリース。

<https://buffalodaughter.com>

アーティスト・プロフィール (2/2)



山本精一

兵庫県生まれ京都在住の音楽家、文筆家、画家。1986年から2001年までBOREDOMS(米ワーナーより発売)に作曲と、ギタリストとして参加。以後、ROVO、羅針盤、思い出波止場、PARA、MOST、TEEM、Ya-to-i、NOVO-TONO、CHAOS JOCKEY他、様々なジャンルにおいてワールドワイドに活動を展開する。特に90年代から2000年代にかけて、海外フェス、ロラパルーザ、グラスストベリーなどに多数出演。また、BOREDOMSのメンバーとして、ソニック・ユースやニルヴァーナといった、オルタナティブ・ロックバンドとのツアーも多数行なっている。音楽家としての代表作はアンビエント作『Crown Of Fuzzy Groove』(ソロ)、『SOUL DISCHARGE 99』(BOREDOMS)、『ソングライン』(羅針盤)、『水中JOE』(思い出波止場)、『FLAGE』(ROVO)、『幸福のすみか』(山本精一&PHEW)等がある。湯浅政明監督アニメーション『マインド・ゲーム』、三池崇史監督の『殺し屋1』、矢口史靖監督の『アドレナリンドライブ』などのサウンドトラックを手がける。エッセイストとしても「文学界」など様々な媒体に寄稿しており、『徒然草』が2008年の年間ベストエッセイに選出。1999年には妄想エッセイシリーズ『ギンガ』、2009年には『ゆん』、2014年に『イマユラ』を出版。さらに画家、写真家としての活動も精力的に行っており、個展や、自作のアートワークにおいて定期的に作品を発表している。

<http://www.japanimprov.com/syamamoto/syamamotoj/>



Photo by Masahiro Ikeda
横尾忠則氏のアートと共に @豊島横尾館

Terry Riley (テリー・ライリー)

作曲家・音楽家。1935年6月24日。カリフォルニア生まれの88歳。

昔も今も、そして未来も、常に新しく、独創性に溢れる音楽を作り続ける音楽界の大巨匠。

初期の名盤『in C』(1964年)はミニマル・ミュージックの金字塔として輝き続け、『A Rainbow in Curved Air』(1969年)はサイケデリックを代表する不朽の名盤となり、その後登場するアンビエント・ミュージックにも大きな影響を与えている。また、レイヴ・パーティーの原型となった「All-Night Concert」の開催、インド音楽から影響を受けた彼の作品はサンプリング/ループの原型となってクラブ・カルチャーにまで影響を及ぼすなど、1960年代から行なってきた革新的な音楽活動は、ジャンルを超え、今なお世界の音楽シーンの礎であり、未来を照らす光となっている。

横尾忠則、久石譲、ジム・ジャームッシュ等、大ファンを公言している表現者は数多い。

2020年より山梨県在住。鎌倉で月一度、ラーガ教室「Kirana East」も行っている。

<https://linktr.ee/terryriley.jp>



朝吹真理子 photo by Chikashi Suzuki

朝吹真理子 (あさぶき まりこ)

小説家。2009年「流跡」でデビュー。2010年、同作で第20回Bunkamuraドゥマゴ文学賞を最年少受賞。2011年「きことわ」で第144回芥川賞を受賞。2022年「Reborn-Art Festival 2021-22」で画家弓指寛治と展示作品「スウィミング・タウン」を制作。

会場 アクセス

1. 京都中央信用金庫 旧厚生センター 展覧会会場



参加アーティスト

コーネリアス
バッファロー・ドーター
山本精一

〒600-8219京都市下京区中居町七条通烏丸西入113

電車：JR京都駅より徒歩5分

バス：市バス烏丸七条バス停より徒歩1分

2. 京都新聞ビル地下1階 展覧会会場



参加アーティスト

坂本龍一 + 高谷史郎

〒604-8577京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町239

電車：地下鉄烏丸線・丸太町駅下車 7番出口すぐ

電車：地下鉄東西線・烏丸御池駅下車 1番出口から徒歩7分

3. 東本願寺・能舞台 ライブ会場



参加アーティスト

テリー・ライリー 立体音響ライブを実施

〒600-8505京都市下京区烏丸通七条上る

電車：JR京都駅より徒歩7分

電車：地下鉄烏丸線・五条駅より徒歩5分

バス：市バス烏丸七条バス停より徒歩1分

4. 国立京都国際会館 Main Hall ライブ会場



参加アーティスト

コーネリアスのライブを実施

〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町422番地

電車：地下鉄烏丸線・国際会館駅より徒歩5分

バス：市バス・京都バス・国際会館駅前より徒歩5分

メディアお問合せ窓口

HOW INC.

MAIL: pressrelease@how-pr.co.jp

お客様お問合せ先

AMBIENT KYOTO

MAIL: info@ambientkyoto.com